



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学校 低学年

- ・サ行がシャ行に置換する。
- ・サ行の付く言葉を表記するときに、タ行と誤って書くことがある。

長期目標

- ・サ行の音を正しく発音できる。
- ・サ行の言葉について、ひらがなで正しく表記する。

通級での指導・支援

サ行の音を正しく発音できるように

○ 舌の体操をする。

- ・舌の力を抜いて、平らな舌を作る。
舌の上にポーロをのせて、30秒停止する。
- 舌の上にポーロをのせて、前後左右に舌を動かす。
舌の上に何も置かないで脱力した舌を作り、30秒停止する。



○ 風の音のまねをする。

- ・舌先と上歯茎裏の隙間から息を出す。
舌先と上歯茎でストローを挟み、息を出す。
ストローを挟んだまま息を吹き、紙製の的を倒す。
- ストローを挟んだ口形を保ったままストローを少し前へ出し、息を舌先と上歯茎裏の隙間から吹いて、ストローの笛を鳴らす。

紙製の的 

○ 【su】の構音練習をする。

- ・【su】の単音練習をする。
風の音(s)を出しながら、母音(u)を付け、【su】を出す。
- ・「す」の単語練習をする。
「す」と母音を組み合わせて、無意味音節の練習をする。(「すあ」「すい」…)
- ・語頭・語尾・語中に「す」が付く単語を練習する。

○ 「す」の音の弁別をする。

- ・「す」の付く言葉を聞き取る。
「す」と「しゅ」の付く言葉を聞いて、「す」の付く言葉が聞こえたら、「○」の札を挙げる。
- ・「す」の付く言葉を探す。
イラストを見て、「す」の付く言葉を探す。「す」の付く言葉を思い出して、書き出す。

通常の学級での指導・支援

- ・発音に誤りがあるために、練習中であることを周りの児童に知らせ、からかったり、指摘したりしないように理解を促す。(2-5-1 参照)

- ・正しい発音ができるときには、学級担任からもがんばりを認め、本児が正しく発話する意欲や自信をもてるようにする。

通級での変容

- * 単音→単語→文章→音読と構音訓練が進み、会話中でもサ行の構音が改善してきた。
- * ときどき表記の誤りが見られることもあるが、自分で気付いて訂正できた。

通常の学級での変容

- * 自信をもって発表する姿が見られるようになった。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学生

・一音一音の切れ目がなく、声が小さいなど不明瞭で聞き取りにくい話し方をする。

長期目標

・舌を滑らかに動かせるようになる。
・大きな声で、一音一音(1モーラずつ)はっきり分かるように発声できるようになる。

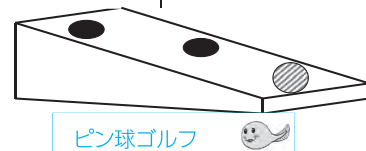
通級での指導・支援

舌を滑らかに動かせるように

- □の体操をする。
□を大きく開けたり閉じたりする。あごの動きを感じられるよう耳の下に指を当てて行う。
- 舌の脱力練習をする。
「アッカンベー」のように舌を出す。その時に舌に力が入って明太子のようになっている場合は、ぺたんこの舌になるように力を抜く。鏡を見ながら力を抜いた感覚を感じる。脱力できるようになれば、脱力した舌を出した状態で母音を言う。
- 舌先の体操1をする。
左右の頬の裏を舌先で押す、左右の口角に舌先あてる、上唇・下唇を舌先で舐める、を繰り返し行う。
- 舌先の体操2をする。
炭酸せんべいのような薄いせんべいの真ん中を舌先で舐めて穴をあける。舌先にラムネの粒をのせてそれを上前歯の裏に付け、その状態でスーッと息を出す。

はっきり発音ができるように

- 「パ・タ・カ」の練習をする。
・「パ」「タ」「カ」を大きな口を開けてゆっくりはっきり言う。できるようになってきたらスピードを速くする。
・「パタカ」を一音一音の口形・舌の位置と動きを確認しながらゆっくり言う。はっきり言えるようになってきたらスピードを速くする。
- 息でピン球ゴルフをする。
図のような穴の開いた斜面の下からピンポン玉を吹いて転がし、穴に入れる。息の強さや吹く長さを調整する。
- モーラすごろくをする。(サイコロの代わりに絵カードを使ったすごろく)
 - ①絵カードを四つの山に分け、裏向けにして置く。
 - ②選んだ山の一番上のカードを取る。その絵の名前のモーラ数だけ進む。例えば「救急車」の絵の場合は、「きゅ・う・きゅ・う・しゃ」と1モーラずつ区切りながらはっきりとした発音で唱えながら進ませる。



ピン球ゴルフ

通常の学級での指導・支援

- ・大きな声が出るような姿勢で音読や発表ができるようにする。
- ・「パタカ」など舌の動きを滑らかにする練習を学級のみんなで行う。
- ・教科書などを音読する場合、読むときの切れ目にスラッシュ(/)などを入れて読みやすくする。

通級での変容

* 発音が明瞭になり、聞き取りやすくなった。

通常の学級での変容

* 積極的に発言するようになった。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学生

- ・会話や長文の音読で繰り返しや引き伸ばしが時々出る。
- ・会話や発表では、語頭音がつまって出てこないことがあり、手足を振ったり叩いたりというような随伴症状も加わる。

長期目標

- ・吃音について正しく理解し、自分の吃音と向き合えるようになる。
- ・発話の流暢性を高め、吃音の頻度を軽減する。

通級での指導・支援

吃音について正しく理解するために

- 会話練習を行う。
 - ・近況の出来事や言葉の調子について話し合うことにより、安心して話せる環境をつくり、発話意欲を高める。
- 吃音理解のための学習をする。
 - ・吃音についての絵本を読んだり、吃音に向き合うためのドキュメンタリー映像集を見たりして、吃音について正しく理解し、自分の吃音と向き合う。

吃音の頻度を軽減するために

- 発話練習を行う。
 - ・腹式呼吸の練習＝体全体の力を抜き、ゆっくりと口から息を出しきり、ゆっくりと鼻から息を吸うことによって、深い呼吸ができるようにする。自分で意識的に呼吸を整えることができるようにする。
 - ・軟起声を出す練習＝のどの力を抜き、軟起声(やわらかい声)で、長く安定した声出しができるように練習する。
 - ・単語を言う練習＝深く息を吸って、第一音をそとやわらかく声を出す。第一音から第二音への移行はややゆっくりと引き伸ばし気味で言うが、その後は通常で言う。単語全体を軟起声で言う。単語練習ができたら、句→文章と練習する。
- 音読練習＝軟起声でゆっくりと読む。
 - ・句読点までは、なるべく一息で続けて読む。やや引き伸ばし気味で読む。

通常の学級での指導・支援

- ・全教職員が吃音について正しく理解をする。
- ・学年当初に、本児の吃音についての説明をどのようにしていくか、本児や保護者、通級担当教員と話し合い、よりよい環境調整を行う。(2-5-1 参照)
- ・発表や音読、号令や話し合いなどの吃音が出やすい場面で、本児が困っていることがないか尋ね、吃音への配慮について、事前に話し合っておく。
- ・吃音には波があるので、言葉の調子に合わせて、適切な配慮を本児に確認する。
- ・学級全体で人の話をゆったり聞く態度を育て、安心して話せる環境づくりをする。

通級での変容

- * 呼吸のコントロールができるようになり、発表などの前に緊張を和らげることができた。
- * 軟起声でゆっくり読むことができ、長文でも、吃音が出にくくなった。
- * 吃音について正しく理解することにより、学級の友だちに自分の吃音について話すこと(自己開示)ができ、自己肯定感を高めることができた。

通常の学級での変容

- * 積極的に学習や学校行事に参加できるようになった。
- * 友だちとの関係が、より良好になった。